

エコキッズアカデミー

～今だから考えたい 地球への思いやり～

■ 事業のねらい

科学的な目で環境をとらえることで、環境に対する興味・関心を強め、生命及び自然を尊重する意欲・態度を養う。



■ 実施日

平成23年9月24日（土）～25日（日） 1泊2日

■ 参加対象

小学校4年生～中学生 40名

■ 参加実績

参加者 空知管内 小学生15名、中学生5名
上川管内 小学生1名 計21名
運営協力者 大学生4名

■ 備考

活動場所 砂川少年自然の家・北海道子どもの国キャンプ場周辺
講師 北海道地球温暖化防止活動推進員 家次 敬介 氏

1 事業実施の背景



3月11日に起こった未曾有の東日本大震災をきっかけに、国内では環境に対する関心が高まってきている。グローバルな問題である地球温暖化からゴミ分別や水質汚濁などの身近な問題があり、こうした問題の多くは私たちの日常生活そのものに根ざしている。

本道では、知床の世界自然遺産登録を契機として、より一層の自然環境の保全と適正な利用を図ることが必要となるなど、社会情勢や地域環境の特性などと十分に踏まえた施策の展開が進められている。

そのため、道民一人ひとりの環境保全に対する意欲を高め、健康で安全に生活できる社会の実現を目指していくことが必要である。

本事業は、一人ひとりが科学的な視点で環境を考え、生命や自然を尊重する心を育むため、地域の自然素材などを活用しながら、実施した。

2 プログラムデザイン

受付 9月24日（土）10:00

解散 9月25日（日）14:00

	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
9/24 (土)		受付	出発のついで	仲間づくりゲーム	昼食	エコ体験① 「森と友だちになろう！」 (ネイチャーゲーム・自然散策・クラフト作製)				夕食	エコ体験② 「ハンカチを自然色に染めよう！」 (草木染め)		入浴 自由交流	就寝	
9/25 (日)	起床・朝食	エコ体験③ 「ソーラークッカーを使って料理をしよう！」 エコクッキング教室 (太陽熱を使った料理)			昼食	ふりかえり	別れのついで	解散							

■ アクティビティについて



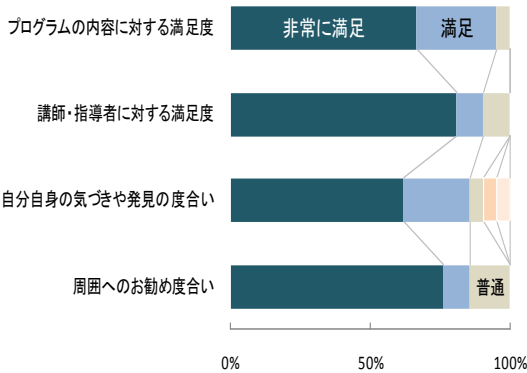
■ 意図

- 自然散策やネイチャーゲーム、自然素材を活かした草木染めなど、体験型・参加型で探究活動と協同的な学習をすることによって、知識を皆で共有しながら理解を深める。人間と環境のかかわりについて知り、豊かな自然や快適な環境の価値についての認識を高める。
- 普段、何気なく捨てているものを再利用する活動をとおして、資源の有用性や大切さを実感するとともに、環境に配慮した生活や責任ある行動をとることができることを目指した。

■ 留意事項

- 危険が伴う活動については、現場を事前踏査したり、講師とは雨天時にも対応できる幅広い活動内容を早い時期から綿密に打ち合わせするなどした。また、参加者の安全を確保できるよう、緊急時における連絡体制をつくり、あらゆる事故にも対応できるよう配慮した。

3 活動の様子



4 事業評価



5 まとめ



■ 当日の様子

1日目は、ネイバル職員の指導のもと、自然を大切にする心や自然を身近に感じさせるため、ネイチャーゲームを行った。

様々な生きものの生態について考えるきっかけづくりをねらいに、石山に生息する動物たちのクイズ、紙の額縁を用意して、森の中の景色や場所、動植物などが一枚の絵のように美しく輝いているものを見つけ出して写真を撮影した森のギャラリーをグループで行い、自然の楽しさを十分に感じることができた。

その後、クラフト制作のための材料探しに森の散策を行った。夜は笹などを使っての草木染め体験を行った。輪ゴムを使って絞りの模様を入れたり、染液に漬けると黄色やうす茶色の世界で唯一のハンカチが出来上がることを知り、参加者は身近な材料で家庭でも染められることを理解した。植物が持つ自然の力を感じたようである。

2日目は、北海道地球温暖化防止活動推進員の家次敬介氏を講師に招き、環境問題と資源の大切さの説明の後、参加者全員でパラボラアンテナに銀紙のテープを貼り、ソーラークッカーを作成した。この日は天気がよく、太陽光をうまく使いながら、美味しいピザやホットケーキを作った。

■ 参加者の声

全体をとおした感想として「すべての体験がとても楽しかった。」「初めての体験だった。とても勉強になった。」という声が多かった。

〈全体の感想〉

- 面白い内容がたくさんあって、とても楽しかったです。これからは森を大切にしていこうと思いました。(小5男)
- エコクッキングが楽しかった。火を使わなくても料理ができることがすごかったです。(中1女)
- 家に帰ったら、使っていない部屋の電気を小まめに消すなど節電などに意識をしていきたい。(小6女)

■ 評価方法・重点

参加者の実態として事前調査では、相対的に「身体的耐性」、「まじめ勤勉」、「非依存」、「明朗性」が高く、「日常的行動」、「視野・判断」が低い値を示していた。

本事業は、自然や生命を尊重する態度や育成を図り、周囲の人々と絆を深めながら、主体的に行動する意欲を育てることを目的としたため、「自然への関心」、「思いやり」、「交友・協調」などの向上について重点を置いた。

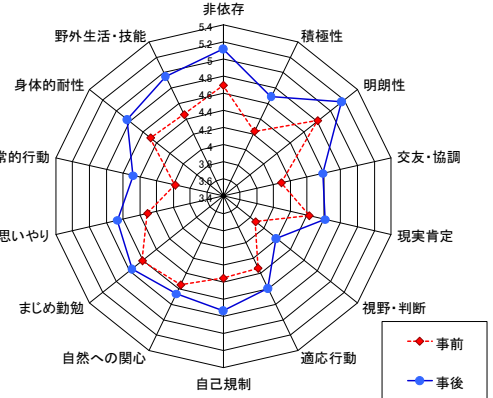
■ 参加者の変容【IKR調査結果】

事前、事後調査の比較では、平均して0.3ポイントの向上がみられ、特に「適応行動」が全項目中で最も向上が見られた。

重点である「自然への関心」については0.1ポイント、「思いやり」については0.4ポイント、「交友・協調」については0.5ポイントの向上が見られた。

■ 結果の分析・考察

「思いやり」、「交友・協調」については、ねらいどおりの効果であったと考える。また、「積極性」「日常的行動」で大きな向上が見られたのは、活動の中に自分の考えや意見を発表する場面づくりを進めたことが主な要因と考える。



■ 成果

- 施設周辺の体験活動や創作活動をとおして、生物の持つ多様性や機能、人間の暮らしを守っている自然環境を守ることを理解することができた。
- 普段から何でも工夫によって再び役立つものにできることに驚き、価値のあるものを安易に捨ててしまっている日常をふりかえり、廃棄物による環境問題について考えることができた。

■ 課題・今後の方向性

- 参加者一人ひとりが環境を守るためにできることを具体的に考えるなど、本事業での学びを、日常生活での主体的かつ具体的な行動に結びつけるためのアクティビティを組み込む必要がある。
- アクティビティの中には、予想以上に時間がかかってしまったものがあったことから、年齢による作業速度の違いを十分考慮に入れて、指導方法や展開計画、スタッフの配置等を検討する必要がある。